



“一丁啮”が行く！

第72回：BCP

「東日本は2月14日夜から15日にかけて広範囲で記録的な大雪となり、甲府市では15日午前、先週の残雪分も含め114センチの積雪を記録して観測記録を更新。埼玉県秩父市は98センチ、前橋市73センチなどいずれも観測史上1位となった。東京都心も歴代8位タイとなった8日と同じ27センチ。横浜市も28センチを記録した。」とインターネット上でも報道されています。

この原稿を書いている本日(2/22)現在でもまだ山梨県では孤立している集落があるということです。

異常気象や地震など、今後いろいろな災害が想定されています。みなさんの企業や自宅での備えは万全ですか？

BCPという言葉、お聞きになったことありませんか。BCPとは事業継続計画(Business continuity planning)のことで、災害や事故など不測の事態を想定して、そのような場合に事業を継続できるように、従業員の安全の確保、事業継続の条件の確保、地域への貢献、企業間連携など、いろいろな視点からの対応策を各企業で検討してまとめたものを指します。

危機発生の際、重要業務への影響を最小限に抑え、仮に中断しても可及的速やかに復旧・再開できるようにあらかじめ策定しておく行動計画です。いつ起こっても不思議ではない災害。真剣に考えておく必要があります。

犬も歩けばサポ-ト日記

シーズン2



=3

シスポートのシステムはいろいろな業種・業態でお使いいただいております。こんな業種でこんな使い方をされているといった事例をご紹介します、参考にさせていただきたく思っております。

部長：おーい、猫山くん！

猫山：はいはい部長、出発準備オッケーですよ！

今日は先だって生産管理システムを導入いただいた〇〇精工さんに向かいま〜す！

部長：おお、最近当社が力を入れている小規模な製造業のお客様向け生産管理パッケージ「Assist」の導入先だね。それは楽しみだ。じゃ、出発！



部長：しかしだよ、まだ本稼働してないんだろ。大丈夫か？

猫山：確かに生産管理の導入は一筋縄ではいきません。社員、機械、工程、材料など稼働前に準備しないとイケないデータもいろいろありますからね。しかし要はお客様のやる気が大事です。

〇〇精工様では日々忙しいながらも着々と準備を進めて下さっているの心配してません。

部長：そうか。ここで君に訊くのは少し恥ずかしいのだが、ズバリ製造業における生産管理の重要性というのは何なんだろう？ 皆さん、何千万もする工作機械はわりと普通に購入されるようだが生産管理のような管理システムは不人気のようだが？



部長：ということで君と同行するのもこれが最後のようだな。

猫山：え、定年退職ですか？

部長：ばっかもーん！ 折角褒めてやったのに。転勤だよ。君もまた新しい上司と組んで良い仕事をしてくれたまえ。

猫山：そうですか、それは寂しくなりますね。今度の3月13日に久御山のクロスピアくみやまで予定している「Assist」をメインにした“生産管理システム勉強会”の最初の挨拶は新しい上司の仕事ってことですね。ご興味のある方はぜひ弊社までお問い合わせ下さい！

部長：最後は手前味噌な宣伝になってしまったようだ。長きに渡り“犬も歩けばサポ-ト日誌・シーズン2”をご愛顧ありがとうございました。では皆さん、またお会いする日を楽しみにしております。



猫山：工作機械は買えば売上に直結しますからね。大変分かり易い訳です。しかしですね、生産管理を全くやっていない会社は存在しません。皆さん何かしらの方法で受注の管理などはされているはずですよ。

部長：じゃあシステム要らんじゃないか！

猫山：問題はやり方だと思うんです。まず受注したら生産予定を立てるわけですが多くの場合EXCELなんかを使ってゴリゴリやっておられます。現場に作業が流れていくと現場任せとなり客先から“あれ、いつ納品できるの？”と訊かれたら現場に聞きにいかないと答えられません。一方納品書は市販のパッケージソフトを使っている会社が多いです。

部長：つまりデータが分散しているということだね？

猫山：さすが部長。まさにそのとおりです。受注が生産情報に展開され、それが工程の進捗と連動し、完了したら納品書・請求書に流れていくのが理想ですが、そうっていないために受注管理のEXCELの表は修正したのに現場への指示は元のままだったり、納品も済んでいるのに売上を忘れていたり、おまけに図面のデータはどこにあるかわからないと非常に無駄が多いのです。その無駄を金額に換算したらどうなると思います？

部長：そうだな。それにデータが分散していると見通しも悪いなあ。データをワンストップで管理するということは今、よく言われる“見える化”に繋がるよね。

猫山：そうなんです。「Assist」では指示書に印字されているバーコードを使って現場で工程の開始・終了をリアルタイムに収集していきますので“あれ、いつ納品できるの？”という質問にも事務所にいながら答えることが出来る訳です。

部長：なるほど、なるほど。そんなとこかね？

猫山：もちろんそれだけではありません。“見える化”で重要なのは本当に儲かっているのか？という点です。製造現場では材料などの直接原価、外部に頼む外注費だけでなく、作業する人の人件費や機械にかかる経費も原価として発生します。これらを把握しないと正しい利益は求められません。次に同じような仕事が来た時、以前の原価が分かっていたら適切な費用を見積もれますが、分からなかったらエイヤでドン、てことになりますよね？

部長：おお、そうか！ さっき君が言ったように工程の開始・終了が分かれば所要時間も分かるね。

猫山：人や機械はチャージを設定しておけます。システムでは誰がどの機械を使って作業したかまで指示しますので所要時間が分かれば今まで見えなかった原価も自動計算されます。そういったデータが積み上がっていけばより精度の高い見積も出来るし、値引に応じる際の判断材料にもなります。今はいろいろと要求の厳しい時代です。生産管理システムというのはどんぶり勘定を廃止し、そういったデータをしっかり管理して以後活用するために不可欠なものだと思います！

部長：珍しく説得力があるな、猫山君！ 素晴らしい！



読者 訪問



第50回

お伺いした会社
お話を伺った方
会社の所在地
連絡先など
e-mail

柳原出版株式会社
代表取締役社長 柳原 浩也 様、代表取締役 柳原 喜兵衛 様
〒615-8107 京都市西京区川島北裏町 74
TEL: 075-381-1010 FAX: 075-393-0469
yanagihara-pub@celery.ocn.ne.jp

創業300年を迎えられた柳原出版さまを訪問し、8代目社長で現会長の柳原喜兵衛様と現9代目社長の柳原浩也様にお話を伺いました。

京都には老舗が多く創業100年以上の会社が少なくないというふうには思っていたのですが、300年とお聞きすると、『そりゃえらいもんや』と思わずにはいられません。

そこでちょっと調べてみました。日本には創業100年を超える会社が何社あるのか、また300年を超える会社は？ 東京商工リサーチの調べによると、2012年時点で全国で創業100年を超える会社は27,441社あるそうです。

更に「200年以上300年未満」が835社、「300年以上400年未満」が582社、そして「500年以上」という会社も158社あるといいます。では、京都が多いのかどうか。都道府県別で創業100年を超える会社数を調べてみると、第1位が東京都で2,058社、第2位が愛知県で1,211社、3位が大阪府で1,080社、そして京都府は第4位で1,030社だそうです。しかしそれぞれの都府県ごとの事業所数に占める割合を計算してみると、京都府が1.08%でトップ、東京都や大阪府は0.5%くらいで京都の半分です。

ということはやはり京都には古い会社が多いということになりますね。

さて、それはともかくとして、現会長の柳原喜兵衛様が平成8年に出版された「覚書『河内屋から柳原出版まで』」と題した一冊の記録書があります。それを頂戴して読んでみました。



社内風景

それによりますと柳原出版様が河内屋という屋号で創業されたのが正徳4年（1714年）だと記されています。つまりちょうど300年前です。江戸幕府第八代将軍徳川吉宗の時代です。そして、代々、喜兵衛という名前を継いでこられた由、現会長も平成8年に柳原喜兵衛を家庭裁判所の手続きを経て襲名されたということなどからはじまり、ご当家の歴史が連々と記されています。

当社もちょうど創業33年を迎え、パソコン業界では老舗だと自負しておりますが300年の重みにはかきません。このような歴史ある会社様とお取引させていただいていることを誇りに思わないといけないと思いました。

さて、この柳原出版様、現在は歴史/文化/社会などの教育専門書などを出版されています。出版会社というと角川文庫や新潮社、講談社などを思い浮かべますが、大学教授などが執筆する専門書の出版会社ですから、私たちが普段あまり目や耳にする機会は多くはありません。実際に毎年新たに出版する書籍は10冊くらいまでで、まさに専門書に特化されておられます。

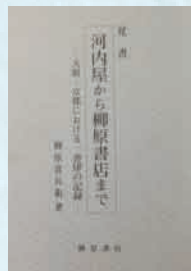
一方、東京に支店があり、こちらは書籍の取り次ぎ、すなわち書籍の卸売をされています。それも、生活協同組合さんをお得意先として各種の書籍を取り扱っておられます。弊社の販売管理システム『BIBLIO』をお使いいただいているのですが、本社と東京支店とでは仕様が異なり、東京支店では生協さんに提供する書籍カタログのデータ提供や、生協さんから送られてくる発注電子データの取り込みなどのカスタマイズを施してご提供させていただいております。

出版業界も時代の変化と共に大きく変わりつつあり、電子書籍などが台頭してきて先行き不安な面もあるかと思うのですが、同社では前述しましたように専門書を中心に出版されており、美術書など紙媒体でなければならないものも多く、今後、電子書籍とうまく住み分けながら生き残っていくだろうとおっしゃっていました。また、自費出版なども手掛けておられますので、新たな出版物の企画があれば是非持ち込んで欲しいとおっしゃっておられました。

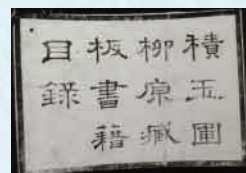
300年という歴史に支えられ、400年、500年と永続的に維持発展されますことを期待して帰路につきました。



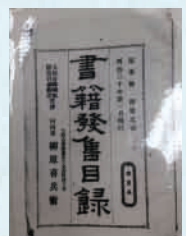
8代目現会長と9代目現社長



『河内屋から柳原出版まで』



昔の書籍目録



TOPICS

小規模製造業向け

生産管理システム勉強会

を開催します。

日 時：2014年 3月13日(木) 14:00～16:00

場 所：まちの駅 クロスピアくみやま
(京都府久世郡久御山町森南大内303)

参加費：無 料

お申し込みは、TEL 0774-63-1131 もしくは info@sysport.co.jp まで

効率的な管理をすることで、ムダをなくして儲かる仕組みを作るためにはどうすればいいか。

大阪八尾市で製造業を営むかたわら、小規模な製造業にマッチした生産管理ソフトを開発した、(株)デジックの上野社長に、「小規模な製造業における生産管理のあり方」についてお話をさせていただきます。

システム情報提供機関誌



info

第75号

2014年3月発行

Presented by Sys:port corp.